

～海外交流派遣研修報告～

大中山中学校 2年 おぐま はな
小熊 華

海外という場所は私にとっては無縁だと思っていました。しかし、それは違っていました。この海外交流派遣研修は貴重で充実した時間を過ごすことが出来、あっという間で夢のような時間でした。

1日目～日本出発・ホストファミリーと対面～

函館空港、羽田空港、成田国際空港にいる間は「まだ日本にいる」という安心感がありました。しかし、13時間のフライトに入ると「もう1人でやるしかないんだ」という思いになりました。飛行機を降りると見渡す限りの外国人と英語。緊張していた入国審査は、指紋も取らず一言も話さずに終わってしまいました。空港からは黄色いスクールバスに乗り、コンコード・カーライル高校（CCHS）へ移動しました。そこで初めてホストファミリーのロバートさん、サブリーナさん、ソフィアに出会いハグをしました。家に着くとホストマザーに家の中を案内され、一つ一つの部屋が広くてびっくりしました。その夜は一緒に野球の試合を見て楽しみました。お土産を気に入ってもらえて嬉しかったです。そして、ホストファミリーからもぬいぐるみのプレゼントをもらい緊張が和らぎました。

2日目～CCHS 初登校～

時差ボケのせいかわ早く起床。朝食はパン、りんごジャム、ソーセージと朝からボリュームなメニューでした。朝はまだ暗く、オリオン座が見えました。コンコード町は自然がたくさんあり、家の周りは森のようでした。2年前に建て替えられた校舎はとても広く、マサチューセッツ州で一番設備が整っている学校でした。昼食はカフェテリアでCCHSの生徒と一緒に食べました。ステーキ、チーズ、ポテトにドリンクはチョコレートミルクと美味しかったです。文化交流では折り紙を教えましたが、言葉が上手く伝わらず苦労しました。帰宅後、ソフィアと塗り絵をしました。私の為にジブリの映画を見せてくれました。夕飯のデザート用にアップルケーキを作りました。ナツメグなどの香辛料が効いていて、とても美味しく3個も食べました。この日感じたことは、

CCHSの方々は目が合うだけで手を振ったり話しかけてくれたりと、とてもフレンドリーでした。日本人にはなかなかできないことだと思いました。



ソフィアと
アップルケーキを作った時

3日目～ラジオ出演&セーラム市～

午前中は CCHS で放送しているラジオに出演しました。一人ずつ話して緊張しましたが、貴重な体験をすることができました。その後、体育の授業に参加し、ドッジボールを日本とアメリカの 2 パターンのルールで行いました。アメリカのルールはボールが 4 つと多く、スリル満点でした。その後、セーラム市へ移動しました。セーラム市は魔女のいた町と言われ、3 日後のハロウィンに合わせ、魔女の人形があちこちに飾られていました。映画「マレフィセント」の衣装をしている人もいて、見ていて楽しかったです。昨日よりも多くホストファミリーと話が出来たので、これからも積極的に交流しようと思いました。

4日目～ポットラックパーティー～

朝、ホームステイ先にあるピアノを弾いていると、ホストファザーがバイオリンを取り出し、一緒に演奏してくれました。ポットラックパーティーにはカップケーキとサラダを持って行きました。皆でイカ踊りを楽しみました。夜に、同じ訪問団の瀬戸さんが私のホームステイ先に来て、ジャック・オ・ランタンを作りました。ピザも生地を伸ばすところから始め、とても良い香りで上手に焼けました。

5日目～ホストファミリーと過ごす日～

朝食はファミリーが白米と味噌汁を用意してくれました。食後はホストファザー一手作りのログハウスを見せてもらいました。昼食後、デイビットファームに行き、他のホストファミリー達と遊びました。迷路で約一時間迷ってしまいました。夜は同じ派遣者の坂田さんのホームステイ先へ行き、夕食を食べました。サラダ、ホットドック、ハンバーガーとアメリカンなメニューで美味しかったです。この日は他のホストファミリーとも関わり、皆優しくて楽しかったです。

6日目～ハロウィン～

ハロウィン当日だった為、学校へ着くと衣装している生徒がたくさんいました。ソフィアの科学の授業に参加すると、先生も全身黄色の蝶々に衣装していました。アメリカでは黒板ではなくスクリーンで授業を行っているのに驚きました。授業は少しだけ理解することが出来ました。そして、ミニットマンやオールドノースブリッジを見に行き、その歴史についてたくさん説明してもらいました。独立戦争が始まったこの場所は、教科書では読み取れないほど深いものでした。次にハーバード大学へ行きました。入口や図書館が大きく、一つの町にいるような気分でした。触れると頭が良くなるといわれる銅像の足にも触れてきました。昼食はクインシーマーケットで大きなソーセージを食べましたが、フードコートで衛生面が悪くなくて残念でした。夜は持参したお茶漬けを作りました。「美味しい」「見た目が可愛い」など褒めてくれてとても嬉しかったです。ハロウィンの衣装に着替えると子ども達が来て「トリック・オア・トリート!!」と叫んでいました。他の

ホストファミリーの人達と周り、たくさんのお菓子をもらえました。日本の七夕のようで楽しかったです。

7日目～コンコード最終日～

朝、いつもはパンですがこの日はパンケーキに。メープルシロップがさらさらして美味しかったです。この日は待ち望んでいたオーチャードハウスの見学。



CCHS 吹奏楽部の練習に参加

室内は撮影禁止だったけど、本で読んだ通りの家でした。学校に戻り、コンコード町内で放送されているテレビに出演。自分の考えや思ったこと、感じたことを言えて良かったです。その後は街に出て昼食。一旦 CCHS に戻り、吹奏楽部の練習に参加。学校から楽器を借りて吹奏楽の交流をしました。音楽室が広く、天井は体育館のように高かったのが印象的でした。曲は日本人作曲の曲でした。顧問の先生にお礼を言うと、バンド T シャツをいただきました。

吹奏楽部の練習に参加できたことは貴重な経験でした。言葉は通じなくても音楽は言葉の壁を乗り越えることのできるものだとわかり、改めて楽しいと気づくことができました。学校を出てウォールデンポンドへ行きました。とても綺麗で透明感がすごかったです。放課後、ソフィアがパン屋に連れて行ってきてホットチョコレートを飲みました。夜はハンバーガーショップへ行きました。さすが本場のファーストフード店だなと思いました。ファミリーからこのホームステイの思い出のアルバムをいただきました。とても嬉しかったです。家に帰り、話をしていると、ホストファザーが世界地図を持ってきて「ここがコンコードでニューヨークはここだよ」と教えてくれ、別れを惜しみ、コンコード最後の夜を過ごしました。

8日目～ニューヨークへ～

ホストファザーとは家でお別れでした。「ニューヨークを楽しんで」と言われ力強く握手をしました。ホストマザーとソフィアとお別れする時は、自然と涙が出てきました。ハグをすると「またいつでもおいで」と言われました。「また来たい、絶対来たい」と思いました。ニューヨークに入るとビル群に囲まれ、セントラルパークを1周、映画「ナイトミュージアム」の舞台、自然史博物館を通過。いつか個人的に入ってみたいと思いました。5番街を歩くと、四方八方に人がいて賑やかでした。オバマ大統領に続くトランプ氏の住まいのトランプタワーや高級ブランド店が並んでいました。ロックフェラーセンターの展望台は360度ニューヨークで、自由の女神も見えました。夜のタイムズスクエアはあちこちから笑い声が聞こえてきました。普段見られないようなものを見ることができ良かったです。

9日目～ニューヨーク2日目～

車内からウォール街を見ることが出来ました。遂に自由の女神があるリバティ島へ。通訳さんより「足にはサンダルを履いていて、左手に独立宣言書を持っている」と教わりました。その後、9.11のグラウンド・ゼロへ。自分はまだ生まれていませんでしたが、どれだけ悲惨だったか伝わってきました。昼食はアジアレストランへ行き、和食を食べました。昼食後、国連ツアーに参加しました。さまざまな会議室の中で1つだけ、天井の一部が吹き抜けのところがありました。「この部屋が未完成なのは、世界が、まだ未完成だから」と説明してくれました。夜はステーキを食べました。明日、日本へ帰るのは信じられなかったです。寝る時この9日間を振り返っても、「楽しかった」の一言でしか表せないくらい充実していました。



自由の女神像前にて

10日目～アメリカから日本へ～

あっという間だったなと考えていました。空港で拳銃を持った警備員がいて銃社会だなと実感しました。函館空港に着くと緊張から解き放たれ安心感に包まれました。11日間の研修は終止符を打ちました。

まとめ・感想

この海外交流派遣研修で学んだことは、アメリカ人の心の広さ、温かさです。言葉が通じなく、悩んだ時もホストファミリーのおかげで良い思い出となりました。もちろん団長さんや訪問団の皆さんのおかげでもあります。笑って泣いてたくさんのお貴重な思い出が出来ました。ホストファミリーの温かさは目に見えなくても感じることはできました。これからもホストファミリーと交流を続け、また会いに行きたいと強く思っています。この貴重な体験をこれからの生活や人生に生かしていきたいです。感謝しかありません。ありがとうございました。